

■ 第12回『SCIX スポーツ・インテリジェンス講座』—スポーツの多様な見方、考え方—
～フットボールタウン神戸は、2019 ラグビーW 杯から始まる

スポーツへの関心・熱気の高まりをどう市民生活に結びつけていくか～

第1回「学生スポーツ界・日本のスポーツのこれから」

講師：玉木正之氏（スポーツ文化評論家）

× 鳥内秀晃氏（関西学院大学アメリカンフットボール部監督）

日時：2018 年 6 月 16 日（土）18:30～20:00

会場：神戸国際会館セミナーハウス



スポーツ界の知見豊かな方々を講師にお招きし、スポーツの在り方や人材育成のポイントを学ぶ『SCIX スポーツ・インテリジェンス講座』。今年で12回目となる『SCIX スポーツ・インテリジェンス講座』では、2019W 杯から2020 東京オリンピック・パラリンピックへと続く国民的なスポーツの関心・熱気の高まりを、どう神戸のスポーツ

文化に結びつけていくのか？を念頭に展開する予定です。特に、ラグビー、サッカー、アメリカンフットボールの三種フットボールが盛んなことから「フットボールタウン」を標榜する神戸にとって、2019 ラグビーW 杯神戸開催のレガシーをフットボール界全体で共有し、どう次世代に繋げていくかは、今から議論しておかなければいけない大きなテーマといえます。フットボールタウン KOBE の未来を見据え、知見豊かな方々と語り合っていきます。

今年は少タイレギュラーの、6月、7月、9月の3度に渡って開催する『SCIX スポーツ・インテリジェンス講座』。初回の今回は、同日14時～、SCIX 前理事長でもある故・平尾誠二氏のメモリアルマッチとされた、日本代表-イタリアのテストマッチがノエビアスタジアム神戸で開催されたことから、今回の講師、講座参加者（希望者のみ）、SCIX スタッフも会場で試合を観戦。SCIX 会員の皆様には SCIX 特製平尾誠二メモリアルマッチ記念Tシャツを贈呈。会場に展示された平尾氏のパネルなどと合わせて故人を偲びました。試合は、残念ながら



22-25 と惜敗を喫しましたが、後半の追い上げもあり、興奮冷めやらぬまま講座会場へと移動しました。



12年目となる『SCIX スポーツ・インテリジェンス講座』。初回にあたる今回のテーマは「学生スポーツ界・日本のスポーツのこれから」。講師は、スポーツ文化評論家の玉木正之氏と、「日大アメフト部悪質タックル問題」により、今や時の人ともなった、関西学院大学アメリカンフットボール部監督の鳥内秀晃氏。当初は、玉木氏一人で登壇いただく予定でしたが、渦中の鳥内監督がご出演

くださることとなり、急遽テーマを変更して開催することに。学生スポーツの在り方が問われる中、改めて「スポーツとは何か」について、SCIXの講座&セミナーに欠かせないお二人に語っていただきました。

冒頭は、当初予定されていた「スポーツを“知る”“学ぶ”から始める、フットボールタウンKOBЕの未来」をテーマに、玉木氏からスポーツ、中でも球技、フットボールの起源について語られました。メソポタミア文明が栄えた頃、「丸いもの＝太陽」であり、それを獲ることはつまり天下を獲ることとされたことから、丸いものの奪い合いがフットボールの起源と言われていること。また、ラグビー、サッカー、アメリカンフットボールは全てそこから派生してできたものということ。さらに、アメリカで発達した球技とヨーロッパで発達した球技には大きな違いがあり、特に、アメリカ型球技には攻守の入れ替えなどがあり戦術を考え、伝える時間があるのに対して、ヨーロッパ型球技はタイムなどもなく流して行う…など、スポーツの成り立ち、背景、特徴についてお話いただき、参加者の皆さんも見識を深められたことでしょう。

ここで、改めて鳥内氏の紹介がされ、大きな拍手と共に登場。ここからは鳥内氏も加わり、玉木氏のナビゲートにより会は進行。「日大アメフト部悪質タックル問題」に潜む闇、スポーツ指導のあり方について、玉木氏が鋭く切り込みます。

はじめに、悪質タックルに見舞われた関学QBの現状について、さらに現時点での日大アメフト部に対するイメージ・感想を玉木氏が尋ね、不意打ちの交通事故のようなタックルだったので完治はしていない旨、今後の後遺症を懸念しているという心境を語り、現時点では（講座開催日時点）、



何故あのようなことが起こったかについて、未だ正式回答がない旨を鳥内氏が明らかにしました。また、今回のような悪質タックルが行われた背景について「よっぽど追い詰められてたんやろうね」と鳥内氏。「スポーツとは本来楽しいもの。追い詰められるなんてことは教育現場ではあってはならないこと。少年野球などでも厳しい指導が見られたりするが、『楽しくない』ということはある」と続けます。この指導論を受けて、玉木氏が関学アメフト部の指導方法の歴史、変遷について尋ねると、「戦前から活動し、創部 75 年になる関学アメフト部には、創部当初から鉄拳制裁のような指導はなかった。先人たちも、体育とスポーツの違いを認識されていたのではないかと」と回答。その言葉からは、先人たちへの敬意と共に、自チームの指導法への自負がうかがえました。

「失敗したら走れ。走ってフットボールが強くなるの？」と鳥内氏が炸裂。会場からも笑いが漏れます。いわゆる軍事教育のような指導をしていたのが原因ではないかと、日大アメフト部の指導法を指摘。以前、「SCIX フットボールコーチングセミナー」で講師を務めていただいた、帝京大学ラグビー部・岩出監督の「日本にはびこる体育会的指導を辞めたら勝ちだした」というコメントを引き合いに出しました。

その後、鳥内氏のコーチング哲学のルーツに話題は移行。コーチングの勉強のためアメリカ留学を経験し、さらに関学アメフト部監督就任後には、教員免許も取得したという鳥内氏。もちろん教員になるつもりで免許を取ったのではなく、指導者たるもの教育者としての勉強もすべきという信念のもと、40 歳という年齢で佛教大学の通信教育を受け、当然費用も自腹で免許を取得したのだとか。



アメリカでのコーチング留学により「相手をリスペクトすることの大切さ。対戦相手がいるから試合ができる。自分たちが強くなれる」ということを学び、教員免許取得により「人間は教育されて初めて人間になることができる」というカントの教育論を学んだと鳥内氏。「ちゃんと教



科書に書いてあるのに、勉強してるんか？って言いたい」と続け、笑いを誘いました。これまでの SCIX セミナーでも「学びを辞めた指導者は、指導者を辞めるべき」といった言葉を聞きましたが、まさに鳥内氏は、それを実行する真の指導者だと参加者の皆さんも感じたことでしょう。

勝利至上主義と勝利目的主義があり、それらは似ているようで全く異なるものだと玉木氏が持論を展開。2003 年に教え子を亡くした経験もある鳥内氏は、「脳震盪を起こし

た選手は使わない。そのために交代選手がいる。安全面やリスク管理は徹底している」と述べた上で、玉木氏に同調。「勝つというミッションを果たすために努力することは大切。だからと言って、勝つためならなんでもやっていいという勝利至上主義はアカン！ルール違反をして勝ってもおもんない」との発言に、参加者も大きく頷いていました。

ここで、近頃メディアでも度々取り上げられているアメリカの NCAA について話は及び、NCAA では、安全のために2年に一度きちんとルール改正がされていること、スポーツだけでなく学業の成績も重要視されていること、日本版 NCAA が立ち上がるかもしれないことについて語られました。また、関学アメフト部では、NCAA 同様、以前から学業も重視されており、「成績が悪いと（関学アメフト部には）入れない。勉強せずにスポーツばかりだと『スポーツ馬鹿』ばかりを生み出す」と、日本の大学スポーツ、強豪チームで長きに渡りおざなりにされてきている部分に苦言を呈しました。

今回の一件は、日本の昔ながらのスポーツ指導、スポーツ界の隠蔽体質を変える上で、いいチャンスだと鳥内氏は言います。「スポーツにおいて暴力はあってはならない。暴力で指導する指導者は、自分に教えるセンスが無いことを露呈しているようなもの。時間はかかるかもしれないが、わかるまで、わかるように、根気強く指導するしか無い」。さらに、「もはや忍耐だけでは社会に出てから通用しない、そんな時代は終わった。主体的に考え、動けることが大切。それができてこそ魅力的な人間になれる」と鳥内氏。

また、日本では「三日坊主」という言葉もあり、何かを始めてすぐに辞めることを善としない風潮がありますが、「幼稚園や小学校の頃は色々やらせて、嫌やったら辞めて他のものをやらせればいい。学校の部活動もシーズン制にしたり、部活の掛け持ちをさせたりして色々な競技をできるようにすることで、身体的にもバランスが良くなり、パフォーマンスアップに繋がる。そうすることで好きなこと、合うものが見つかる」と、子育てや部活動のシステム、学校教育に提言。というのも、鳥内氏曰く、モチベーションの最たるものは、熱中できることであり、「好き」という気持ち。子どもは皆熱中する力、集中する力を持っている。勝利も報酬も必要ない。「好き」「楽しい」という気持ちが何より大切だと。その熱を持ち続けられるチームが強くなるのは当然であり、その熱を持ち続けられるようにするのが指導者の役目であり、手腕だと。

悪質タックルを行った当該選手が、記者会見で「（アメフトを）好きではなくなってしまう」とコメントする場面がありましたが、好きだったはずのアメフトを、前途有望な若者から奪った指導者たちの責任は実に大きく、罪深いのではないのでしょうか。おそらくこれは氷山の一角。今回の一件を機に、学生スポーツのあり方を見直し、日本スポーツ界に残る悪しき風習が根絶されることを望むと同時に、SCIX でも引き続き警鐘を鳴らしていきたい所存です。

今回も100名超にも及ぶ多くの方々にご参加いただき、ありがとうございました。次回は7月21日（土）。元ラグビー日本代表であり、現・神戸親和女子大学准教授の平尾剛氏を講師に、

ゲストとして SCIX ラグビークラブ卒業生
を迎え、「1本のトライは、五輪のメダル
 にも匹敵する喜び！～元日本代表の語る
 体験的ラグビー論」をテーマに語って
 いただきます。多くの皆様のご参加をお
 待ちしております。



(レポート 中野里美)

スポーツ振興くじ助成事業

スポーツくじ

